

令和7年度こどもの国協会事業報告

1. 令和7年度 理事会及び評議員会の開催状況について

(1) 第117回理事会

- ・ 日 時 令和7年5月26日（月）10時00分～11時05分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 令和6年度事業報告（案）
 - 第2号議案 令和6年度決算（案）
 - 第3号議案 理事及び監事の選任について
 - 第4号議案 評議員の選任について
 - 第5号議案 評議員選任・解任委員会委員の選任について
 - 第6号議案 定時評議員会の招集について
 - ・ 報告事項
 - 令和6年度の施設整備（国庫補助）について
- 上記、6議案が審議され、承認されました。

(2) 第87回評議員会

- ・ 日 時 令和7年6月25日（水）13時00分～14時00分
 - ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水
 - ・ 議 案
 - 第1号議案 令和6年度決算（案）
 - 第2号議案 理事及び監事の選任について（案）
 - ・ 報告事項
 - 令和6年度事業報告
 - 令和6年度の施設整備について
 - 令和7年度予算の概要について
 - こどもの国開園60周年記念事業の実施について
 - 令和7年度施設整備予算の概要について
 - 次期評議員の選任について
- 上記、2議案が審議され、承認されました。

(3) 第118回理事会

- ・ 日 時 令和7年6月25日（水）14時30分～14時50分
- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水

- ・ 議 案

- 第 1 号議案 理事長の選定について

- 第 2 号議案 業務執行理事の選定について

上記、2 議案が審議され、承認されました。

(4) 第 119 回理事会

- ・ 日 時 令和 7 年 11 月 17 日 (月) 10 時 30 分～11 時 20 分

- ・ 会 場 こどもの国会議室

- ・ 報告事項

- 令和 7 年度上半期事業報告について

- 令和 7 年度上半期収支状況等について

- 令和 7 年度施設整備の進捗状況について

- 令和 8 年度施設整備予算要求の概要について

- その他

- こどもの国における入園料等の改定について (案)

- こどもの国 キャッシュレス導入について (案)

- 社会福祉法人こどもの国協会の 60 歳以降の働き方等について (案)

(5) 第 120 回理事会

- ・ 日 時 令和 8 年 3 月 16 日 (月) 10 時 00 分～11 時 00 分

- ・ 会 場 ワイム貸会議室お茶の水

- ・ 議 案

- 第 1 号議案 令和 8 年度事業計画 (案)

- 第 2 号議案 令和 8 年度予算 (案)

- ・ 報告事項

- 令和 8 年度施設整備予算 (案) の概要について

上記、2 議案が審議され、承認されました。

2. 入園者の動向

令和 7 年度の入園者数 (有料) は 748,876 人 (前年度比 98%) で、前年度を約 17,000 人下回り、コロナ禍の影響を大きく受けた令和 2 年度以降の 6 年間では、令和 3 年度に次いで 4 番目の入園者数となった。開園 60 周年ということで高めに掲げた目標の 85 万人に対して、88% の達成率だった。多くの入園者が見込まれる 4 月、5 月、10 月に雨の影響を大き

く受けたことが、結果に直結した。

(1) 上半期

上半期の入園者数は363,240人で、前年度比98%となった。4月から6月は、3ヶ月連続で雨の影響を大きく受け、前年度比約34,000人の減少となり厳しい滑り出しとなった。一方、7月から9月は、酷暑の影響を受けつつも、全般的に天候に恵まれたことで好調な推移をみせ、約28,000人の増となり、上半期は前年度比約6,000人の減少に留まった。

(2) 下半期

下半期の入園者数は385,636人で、前年度比97%となった。10月は天候に恵まれず、毎週末に雨の影響を受け、集客が期待されていた60周年記念の大型イベント2件も雨天となり、単月で前年度比約22,000人の大幅減となった。11月は回復し前年度比で約15,000人の増加となったが、その後は、営業日での雨天がなかった1月を除き、前年度を上回ることなく推移し、下半期は前年度比約11,000人の減少となった。

3. 事業実施状況

I. 開園60周年特別行事等

(1) 「建物ガイド 新進建築家の構想から60年」の発行

園内散策用のガイドブックとして、開園当時の新進建築家らの構想や建物、その痕跡などを写真や図面、地図入りで紹介する小冊子（1部200円）を令和7年3月1日に発行し、令和8年3月末時点で約120冊を販売した。

(2) 記念入園券の発行

発券窓口で、2種類の絵柄（白鳥湖の今昔の写真）の記念入園券を、販売時期をずらして各15万枚販売した。また、園内売店で、割引記念入園券セット（大人2枚、こども1枚。定価1,400円を1,200円）を200セット準備し、完売した。

(3) ユウスゲの記念植栽セレモニー

開園50周年の際に御所からいただいた「ユウスゲ」の植生域を、開園60周年を機に拡大することとし、入り口の時計塔横の特別花壇に植栽するセレモニーを4月19日に開催した。60周年記念事業の開幕イベントと位置づけ、公募によって招待した12組38人が約150粒の種子を播き、苗約50株の植栽を行った。セレモニー終了後、お子様には60周年オリジナル缶バッジ、1組毎にこどもの国サブレとジッパーチャーム、ユウスゲの種をプレゼントした。今後数年かけて、さらに植生域を広げる。

(4) 「思い出の遊具」写真展

4月29日から12月30日まで協会所蔵の昔の遊具の写真53点をパネル化し、ふれあい学び館に展示した。パネルにできなかった写真は学び館内のモニターでも流し、当時を懐かしんでいた。いただいた。

(5) 思い出メッセージ募集

3月15日から10月30日まで「こどもの国の遊具」や「こどもの国で遊んだ」思い出メッセージを利用者に寄せていただいた。ホームページの投稿フォームから募るとともに、上記写真展の開催期間中はふれあい学び館に備えたポストでも受け付けた。集まった21件の「思い出メッセージ」のうち7件は、特設ホームページやふれあい学び館で紹介した。

(6) 「思い出」吹奏楽

記念事業前半の目玉イベントとして、5月10日に開催した。こどもの国でしばしば自主公演している吹奏楽の実力校東海大相模高校、横浜創英高校、横浜市立谷本中学校の吹奏楽部に依頼し、「こどもの国の歌」をはじめ、懐メロなど昔の楽曲を平成記念館で演奏していただいた。3校総勢約370人が参加し、午前、午後の2公演で約700人が鑑賞した。

(7) ダンスフェスティバル

中学校の学習指導要領で必修となり、また昨今、若い世代から愛好者が増えているダンスのイベントを、6月7日に初めて主催した。ダンスのジャンルは問わず、近隣の幼児から高校生まで8団体300人が様々なダンスを披露し、約350人の観客を魅了した。

(8) 三世代大運動会 ～よしお兄さんもやってくる～

記念事業の後半の目玉イベントとして10月11日に開催する予定だ

ったが、中央広場イベント広場での三世代運動会は雨天中止。平成記念館で、よしお兄さん（NHKおかあさんといっしょ第11代体操のお兄さん）のショーを2回行い、200人程の参加者と一緒に体を動かす体操を行った。各回の最後には、来園者とよしお兄さんの撮影タイムを設けた。会場周辺では体力測定や骨の健康度チェックも実施した。

（9）ステージショー「ケロポンズと歌って踊ろう」

10月25日、平成記念館で開催した。あいにくの雨模様で気温も低い日だったが、2回のショーに約500人が集まった。あそびうたで子どもたちに人気の音楽ユニット・ケロポンズと一緒に参加者が歌って踊り、楽しく体を動かした。ショーの最後に雪印メグミルク様よりジュースの提供いただき、頒布会を実施した。

II. その他の主な自主事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」第1条第3項に掲げる事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、豊かな自然を活用した各種の催事・事業を進め、学校教育では得がたい学びの場、自然とのふれあいの場、遊びの場、親子の絆づくりの場として、主な次の事業を行った。

なお、開園60周年にあたり、例年開催しているイベントについても可能な範囲で「60th」を冠し、付加価値をつけて実施した。

（1）自然と親しむ四季折々の事業

恒例の「野草の天ぷら」（4月、47人参加）、「じゃがいも掘り」（6月、106人参加）、「枝豆収穫」（7月、111人参加）、「サツマイモ掘り」（10月、96人参加）、「シイタケのほだ木作り」（3月、43人参加）に加え、コロナ禍で中止していたバームクーヘン作りを再開し（3月、117人参加）。新たに「五平餅作り」（11月、58人参加）を実施した。ふたつの食イベントはいずれも好評で継続開催する。

また、生きものに関するイベントとして、「テナガエビ釣り大会」（7月、150人参加）、「セミの羽化とカラスウリの花観察会」（7、8月、計170人参加）、「セミのぬけがら調査」（8月、11人参加）などを実施。初心者向け「身近な野鳥観察会」（2月、雨天中止）を、平日イベントとして「大人の自然観察会」（5、10、12、1、3月、計18人参加）

を開催した。また、新たな企画として、簡単な自然などを紹介する「みにおはなし会」（紙芝居形式）（８月～３月の日曜日、計１５７人参加）をビクターセンターで行った。

（２）季節ごとの集客イベント

恒例の「春まつり」は「６０ｔｈ」企画として、自然に関するクイズを解きながら園内を散策する「自然探偵ハイク」（５月、９６５人参加）を実施した。夏には、８月末の夏まつりに加え、新規イベントとして、参加者がグループに分かれて、体に付けたポイをめがけて水鉄砲で撃ち合う「びちょぬれ水鉄砲合戦」夏の陣（７月、２７６人参加）、秋の陣（９月、３９６人参加）を開催。また、１０月の秋まつりでは、三世代運動会は中止となったが、スポーツの日にちなみ、体操のお兄さんのショーや体力測定・骨密度測定などを、冬にはたき火広場などを実施した。繁忙期に出店してもらったキッチンカーでも、季節ごとのテーマに沿ったメニューが好評だった。

（３）プール・スケート等

夏季のプールは、８月中の特別開園日を１日増やし、７月１９日から８月３１日までの期間の４０日間開場した。利用者数は５８,３６８人で、前年度比８,７５３増。ただ、コロナ禍前の令和元年度比８３％にとどまった。横浜市で猛暑日が８月中に９日間（前年は１２日間）あり、利用者減に影響したとみられる。利用者の少なかった２５ｍプールについては、外部業者によるアトラクションの運営を委託した。延べ１３千人の利用があった。

スケート場は、１２月２０日から２月２３日までの期間の５７日間営業し、利用者は約４１,３６５人で前年度比３,３９６人減、９２％となった。国費工事に伴い、営業日が５日減っており、その影響と思われる。コロナ禍前の令和元年度比では９５％だった。

国費工事によって貸し靴スペースが２階から１階に移り、動線がスムーズになったと好評だった。

平日、シニア層をはじめとする自然愛好家などを対象に園内の自然の中を歩くノルディックウォーキングの利用者数は３８２人だった。より参加しやすい当日受付制を取り入れたが、前年度比３９人減、９１％にとどまった。

4. 雪印こどもの国牧場と連携した事業

雪印メグミルクグループ創業100周年を記念して、5月17日に「ミルクフェスティバル in こどもの国」を開催した。あいにくの雨だったが、体験型イベント、ミルク3種飲み比べなどに約300人が参加した。新ミルクプラントのグランドオープンに合わせた寄贈式があり、雪印メグミルクの佐藤雅俊社長にも出席いただいた。4月5日、6日の「桜と羊のフェスティバル」ではかざぐるま工作で連携。10月25～26日の「牧場まつり」は2日目が雨天中止となった。

5. 企業・関係団体の助成や協賛等による事業

(1) フォトコンテスト2025

「こどもの国の春を感じて」がテーマのフォトコンテストは、60周年記念として、募集期間を例年の4月末からゴールデンウィーク終了の5月6日まで締め切りを延ばして実施した。朝日新聞社、朝日新聞出版、資生堂、東急電鉄、ベルマーク教育助成財団、雪印メグミルク、横浜エフエム放送、横浜高速鉄道各社の助成・後援を得て実施。応募352点から、60周年特別賞を加えた36点を入賞作品に選んだ。入賞作品はホームページに掲載し、来園されたことのない方々にこどもの国の魅力をPRした。

(2) 吹奏楽コンテスト・ブラスフェスティバル

「ブラスフェスティバル」は、春は5月11日に、中学校11校（513人）、運営協力の高等学校1校（約130人）が参加。秋は10月18日に、神奈川、東京の中学校10校（約658人）と運営協力の高校1校（120人）が参加。冬は11月24日に高校7校（366人）が参加して演奏が行われた。

「こどもの国吹奏楽コンテスト」は、10月19日にヤマハミュージックジャパンの協力を得て、中学17校約580人が参加し、「特別賞」「金賞」「銀賞」を競い合った。

(3) 第44回こどもの国サッカー大会

近隣6市（横浜・川崎・相模原・厚木・大和・町田）のサッカー協会と連携し、雪印メグミルク、朝日新聞社、モルテンの協力を得て開催。

11月8日は小学生高学年と低学年の部、同9日は小学生中学年と小

学生女子の部を実施。男子は各部８チーム（約１２０人）によるトーナメント形式、女子の部は６チーム（約９０人）によるリーグ戦形式にて優勝を競った。

（４）ジャンボカルタとり大会、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、１月２、３日に恒例の「ジャンボカルタとり大会」を中央広場で開催。２日間で約６５０人が参加した。１月１２日には、松飾りや書初めをお焚き上げする「どんど焼き」を実施。約３３５本の焼き芋を入園者にプレゼントした。６０周年で増額いただいた助成金で、古くなった焼き芋釜、カルタ札の一部を新調した。

６．地域との連携強化

（１）地域との交流の推進

- ① 夏・冬休みの地元自治会主催 の「親子の集い」にプール・スケートを無料開放した。
夏、冬ともに約１，０００人の地元住民で大いににぎわった。
- ② 地元・青葉区の区民デーとして、１２月６日に中学生以下の入園料を無料とした。
- ③ 年間を通し、地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業として園内のベンチの清掃を例年通り委託した。
- ④ 休園日などの駐車場を青葉消防署・青葉警察署の各種訓練会場、青葉保健所の狂犬病予防接種会場、奈良中学校行事の保護者駐車場として提供した。

（２）地域団体等とのイベント

- ① こどもの国を会場とした「神奈川県児童福祉施設対抗駅伝大会」（１１月１５日）、「同卒業マラソン大会」（１月１７日）を後援し、大会の会場使用料、入園料、駐車料金を減免するなどの協力を行った。
- ② 町田警察署が８月３１日開催の夏まつりにブース出展。子どもたちが「反射神経ゲーム」「ミニパトロール」を楽しみながら、交通安全、防犯の意識を高めた。また、青葉区役所が１１月２９、３０日のアウトドアイベント「ソトアソビチャレンジ」にブース出展。グリーンエキスポについてPRした。

7. 広報・PR活動

(1) ホームページ、SNS、動画の活用

新規に作成したこどもの国イメージ動画『横浜こどもの国であそぼう』をホームページやYou Tubeなどで公開し集客に生かした。

また、SNSも日々園内の様子を発信し、土日祝日は園内の混雑状況や駐車場情報も適時発信、更新した。

(2) マスメディア、自治体広報、ミニコミ誌の活用

従来のネット広告に加え、マスメディア、ミニコミ誌、自治体などに開園60周年記念イベント等の情報を積極的に提供し、記事によるイベント情報を提供した。

- ① 横浜市が発行する5月1日付「広報よこはま」(約160万部)の、横浜の歴史・文化・自然などを紹介するコラム「よこはま彩(さい)発見」で、60周年記念事業などを紹介した。
- ② 青葉区のInstagramで、こどもの国の特集記事を配信いただいた。
- ③ 60周年記念事業や季節のイベント情報を掲載した、「日刊スポーツ号外」(横浜市、川崎市、町田市の8万世帯配布)を春と冬に発行した。
- ④ 購読者層が来園者層と近い「朝日小学生新聞」(約10.2万部)に年4回(4月、7月、12月、1月)、季節のイベント情報を中心に5段広告を掲載した。
- ⑤ 夏の集客を図るため、県内私立幼稚園の在園児の各家庭に配布されるフリーマガジンの月刊情報誌「あんふあん」(約8万部)にプールや夏のイベント「セミのぬけがら調査キット」の広告掲載をした。
- ⑥ 公立小学校などで配布する子ども環境情報誌紙「エコチル」東京版(約17万部)に「冬の森のたからもの」の広告を掲載した。
- ⑦ 地元ケーブルテレビ局イツココミュニケーションズ社の人気番組「ウド様おねが〜い!!ココロつながるポジティブCATV」で、令和8年3月の4週にわたり、こどもの国を紹介いただく企画を実現した。
- ⑧ 朝日学研シンクエスト社主催の「キッズみらいアワード体験・まなび部門」にエントリーし、部門賞を授賞。HP、SNSで発信した。

8. 自然環境及び施設・設備

(1) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施

豊かな自然環境を維持し、入園者の安全を確保するために、樹木の剪定を進めるとともに、倒木の危険性の高い樹木92本を伐採した。人の立ち入る範囲内で15本の倒木があったが、けがなどの被害はなかった。

(2) プール・スケート場管理棟の改修等

プール・スケート管理棟においてひび割れ等の劣化部の補修に加え、トイレ等衛生設備の改修、更衣室と貸靴所の入れ替えを行った。この改修によって外部より便器の見えないトイレとなり、またスケート靴の貸出所とスケートリンクとのアクセス性が向上しスケート場利用者の快適性及び利便性の向上につながった。夏のプール営業、冬のアイススケート営業にできるだけ支障が生じないように2期に分けて工事を実施した。

日本宝くじ協会の助成事業においては、白鳥湖下の「おとぎの広場」の更新を行った。この更新は従来の遊具のコンセプトを受け継ぐものとなり、令和8年3月14日（土）にオープニングイベントを実施し供用を開始した。

9. 寄付金・遺贈の受け入れ

自然環境の維持や施設整備の財源を多角的に確保するため、個人や法人等からの寄付金や遺贈を受け入れやすくする制度を整え、ホームページやパンフレットなどで広く寄付を呼びかけ、7件、約800万円の申し出をいただいた。また、所得税に加え、神奈川県及び横浜市の個人県民税及び個人市民税の寄付金税額控除対象の指定を受けた。